



書
評

内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術 CT 読影と基本手技 [3DCT 画像データ DVD-ROM 付]

監修：伊藤壽一
編：中川隆之

A4・頁 236 2014 年 定価：本体 12,000 円＋税
[ISBN978-4-260-01972-9] 医学書院刊

<書評者> 岡野光博 (岡山大学准教授・耳鼻咽喉・頭頸部外科学)

3DCT データを操作しながら読み進められる 画期的な書

待ち望まれていた内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術の新刊書である。本書は京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授の伊藤壽一氏によるご監修の下、中川隆之氏が編集を務められ、同大学で行われている手術解剖実習の講師陣が執筆されている。手術解剖実習で得られた知見などを基に、内視鏡手術を行ううえで知っておきたい新しい知識やテクニックを余すところなく伝えている。

本書の最大の特徴は、付録の DVD-ROM に収められている 5 例の cadaver の CT 画像データを閲覧・操作しながら読み進めることができる点であろう。いうまでもなく手術を行ううえでの基本は局所解剖の理解であり、内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術においては術前 CT の適切な読影が大切である。本書の構成は DVD-ROM に収められている 5 例の CT 読影および解剖が中心となっており、本書に掲載されている図の多くは DVD-ROM に収められている 5 例を用いている。5 例のファイルを開き、「i-VIEW ワンデータビューワ」で画像を「クルクル」回して、図と同じスライスがヒットしたときは楽しく、前後左右上下に「クルクル」することで解剖の理解が進む。手術書のみならず数多ある耳鼻咽喉科学関連の教科書の中でも、ここまで CT 画像データを読者自身が詳細に操作できる書物はあまりないように思う。「面白くて、ためになる」企画がなされている。

本書は 5 章から成っている。前半の 3 章 (①セットアップ, ②基本操作, ③鼻副鼻腔炎に対する手術-基本編) がベーシックコースで、後半の 2 章 (④鼻副鼻腔炎に対する手術-応用編, ⑤頭蓋底手術における鼻副

鼻腔操作) がアドバンスドコースと捉えることができる。200 ページを超える手術書であるが、これから内視鏡下副鼻腔手術 (Endoscopic Sinus Surgery : ESS) を始めようとする若手の医師にはまず前半の 3 章 (約 100 ページ) を通読されることをお勧めする。特に構造が複雑な前頭洞周囲の解剖・CT 読影・手術手技には詳しい解説がなされており、ドレーナージルート開放による前頭洞手術について理解を深めることができる。

経験で得られた知識や知恵を言葉、特に文字に残すことは案外難しい。本書は執筆者の豊富な手術経験を惜しみなく伝えており、内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術の初心者のみならず、経験者にとっても有益な情報が多く記されている。「蝶形骨洞粘膜は易出血性である」や「鼻中隔での嗅糸確認を行う (前頭蓋底手術)」など、特に各セクションの冒頭に箇条書きで記されている “Point” には膝を打つ知識や知恵が記されている。また、本文中の「悩まされることがある」との表現は、「悩まされた」と同義であろう。苦い経験とその対処を若い世代に伝承しようとする編者らの強い意志を感じる。

本書で編者は「本書を基本として、独自の手術手技やコツを開発してください」と述べている。副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術のプリンスは副鼻腔の換気と排せつ路 (ドレーナージルート) の作製および粘膜保存であり、世界共通である。一方、そのための術式には本書で紹介された手技以外にも area management など多くの優れたテクニックが考案されている。本書は、術者自身のテクニックを確立するための教科書の 1 つとして、あるいは体得したテクニックをブラッシュアップするためのテキストとしても座右の書となるだろう。